

刊夕日一廿月九



定額 一部金貳拾月金五拾拾 郵費別五拾
廣告料 五拾月 字詰一行金五拾拾
日曜祭日の翌日休刊
發行所 常磐毎日新聞社 青森市
印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社 青森市

一萬年後の世界

眞、繼、雲、山

八千餘萬の日本人中、百歳以上の長壽者は僅々百餘名に過ぎないといふことだから、人壽二百歳は絶無といつてよい。野見宿彌が三百年生きたといふのは、アレは昔噺である。

既に人壽二百歳を越ゆべからざることを明白とすれば現在、地球上の生存者中、二百年後の世界の有様を觀照し得るものは一人もない事となる。

況んや西方十萬億刹の淨土觀照をや。披山蓋世の勇飛行機、ラヂオの智も、思へばたわいのない淺はかな人力ではある。

二百年後、既に然り、三百年後、五百年後透見し得べきにあらざること論を俟たず、況んや千年後をや、二千年後をや、千年以前のあすかの朝、

平水道擴張工事成る

酒、井、耕、影

上水の擴張竣へて月の秋名月や銀波碎けて大瀧江貯水池に名月宿す上の原松ヶ岡噴水遊り月の友この月に三萬町民迎へる

奈良朝の歴史を通じて、おぼろげながら、その當時を想見し得る私たちは、願はくは千年後の世界をも何とかして見物したく思ふ。金の一萬圓よりも、その見物の方が面白からすが、只今の拙者には、その何れを得るアテがない。結局、百年後、千年後の有様は、小説家の空想談を讀んで我慢してゐるより外はない。況んや五千年後をや、一萬年後をや。

然り、私たちは只今の私の凡慮のまゝでは一萬年後の世相を知り得ないけれど一切萬物は時間なき空の体であつて、たゞ自己の壽命と分別心により自他を分ち時間を計度してゐるのである以上、只今の私たちは、一萬年後の眞如の當体であり、従つて同時にその當相の一分であるといふことになる。茲においてか一萬年後の當体、何者ぞやを究明

今日科學の所説に従へば、地球は何億年かの後に冷却して月輪の如くに溷死し、更に何億々年かの後に他の天體と衝突し、發熱して、星雲となり、瓦斯體となり、固形して熱球となり皮殻を生じて、地球となり山川草木を生じて生物界をつくるといふのである。

この長々しい説明は、佛説の『成住壞空』と何等異なるものでないといふれば、宇宙の當体、前途、知るべきのみ。況んや一萬年後の世相をや。要する人生には無常變易の相であるが、そのド

ら忠臣藏の結着はまア〜それで分つたといふものである。星の世界が何億あるかは知らないが、要するに佛説『成住壞空』の圏外に出づるものではない。況んや地球劇の千秋樂をや。宗教とはさうした成行を研究することではなくしてそのド底の觀照の上で、動きのない安心を得ることである。只今の當体、何者ぞ、一萬年後の當体、何者ぞやといふ眞實の我れを見つけることである。――完――

全く醫者を呼ぶ餘裕もなかつた。突つ嗟のことだつた。父は臺所の隅つこへ鐵を押しやつた、が、その儘地べたへドツカリ卒倒して死んでしまつた。過勞から来た心臓麻痺のためだつた。息子の泰治が、炭礦街へ野菜賣りに行つて歸つて来たときには、もう父はスツカリ呼吸が絶えて冷めたくなつて居た。



(1)

父 荒、定、雄

急を訊いて駆けつけた隣人だちはめいめいに『御愁傷なことで』とか『なんとも申し兼ねたこととで、まだまだそんなお歳でもなかつたに』と悔みを述べた。父はまだ五十二歳、満五十一歳と三月だつた。父は死んだのだ。何故?

「濕氣がムンムンとつぼく、そしてたゞつ廣く黄昏の牢獄ほどに暗らい家が、急に喧騒を腹一填に孕んで、インダラ船見たいにグラグラと揺れた。泰治は碎けるやうに頭の蕊がしくしく痛んだ。妻を顧みたら唱が妻の背中へく〜りつづられたまゝ、やすらかに寢入つて小さい鼻孔を伸縮させた。

たそがれ、父は空しく棺箱のなかへ這入つた。棺箱の前どころには、落雁がならべられ線香の煙が往くへながら匂つた。

木村外科科門 柳花科門 院醫科外村木

平町南町 電話三〇七番

看護婦急派

の求めに應じます

平町南町 看護婦急派 電話三〇七番

旭硝子株式會社製品 赤菱印 板ガラス 硝子 壺 硝子 食器 其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番) 仙臺市榮町(電話五九七番)



平町四丁目停車場通電四三六

毎度御ひいき 有難ふ御座ります うなぎの御用命は うなぎ 奴

平町田町(電話二二番) ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

市原醫院

平町田町(電話一一四番) 内科、小兒科 市原卯太郎 外科一般、婦人科 市原陸郎 外科、梅毒、淋病 市原三三男

入院隨時

攻防兩軍に分れて

明朝の平町市街戦

鎌田方面の戦闘に始まり

長橋方面水中爆破に終る

既報明朝午前五時を期して行はれる平在郷軍人分會の平市街戦は在郷軍人分會員を始めとして青年訓練所生警中、平商

各生徒

夫れに歩兵四聯隊、工兵二大隊等よりの参加兵を合して四百餘名が東軍(攻撃)西軍(防禦)に分れ東軍は午前四時第三小學校庭に、西軍は同時刻平商業庭に、統監部は藤田女學校庭に夫々集合

定刻に至るや愈々鎌

田町地内より戦闘を開始して市内七本の主要道路に攻防戦線を敷き午前七時頃より松ヶ岡第二公園裏手の防禦軍陣地の争奪戦を展開、攻撃軍は御厩方面より攻撃の際新川の橋梁其他の障害物を工歩隊に依る水中爆破を行つて

戦闘を中止し同九時

公園忠魂碑を参拜して市街戦を終了する豫定であるが當日の兩軍陣容及び係官は左記の如くである

△東軍(攻撃)分會員、訓

練所生、警中半數、機關銃二ヶ分隊、歩兵砲一ヶ分隊、指揮官藤井少尉△西軍(防禦)平商生、警中

隊半數、機關銃一ヶ分隊歩兵砲一ヶ分隊、假裝甲自動車隊、指揮官國分少尉△審判部、八谷中佐、駒場中尉、藤田少尉△統監部、伏見平町長、四家少佐、山崎分會長、各學校長、平警察署長

派遣選手の

旅費に窮す

石城聯合青年團に

負擔金が集らない

石城聯合青年團にては本年度負擔金未納の各分團に對し今月末迄納入する様夫々督促状を發したが未納分團は二十七分團の内平町外十九分團にて此の金額二百圓に達し若し今月末迄に納入せざれば來月二日縣の体育大會に派遣する選手の旅費にも差し仕へる有様である

競技豫選

平第二校にて

昨報平第二小學校にては本日尋常科第五學年以上の競技豫選會を行つたが各學年の入賞者は左の如くである

(五年)正木千鶴子 長谷川フミ 北村コト(六年)阿部トシ子 花澤ツヤ 熊トリ(高二)奥津貞子 天野トミ 矢島ソブ(高二)島津佳津子 織田タカ子 渡邊シヅニ

警中ラクビー部が

仙工と一戦を交ふ

廿五日に仙臺へ遠征

警城中學校ラクビー部に於ては去る十八日仙臺市八木山グラウンドに於て行はれた全國中等學校ラクビー蹴球大會東北豫選に不戦一勝し六對三のスコアにて仙臺二中を敗つた仙臺工業と對戦する事になり廿五日平發午前五時四十分にて梅森横井兩教諭引率の下に出場するが選手は左の如くである

▼百米 (五年)鈴木トミ 正木千鶴子(六年)中村春子 阿部ヒデ子(高二)武田早苗 矢島ソブ(高二)國井キミ 高橋道子

國井キミ 小泉ユキ 飯島フミ (五ノ一)鈴木トミ 北村コト 猪狩キミ 新妻シナ子(六ノ二)中村春丸 山八重子 格和京子 丸岡八重(高一ノ三)飯島ソブ 武田早苗 馬目ヒロ子 木間アイ子(高二ノ一)高橋道子 田村ユリ子 平山シナ 島津カツ子

小麥増殖

指導協議

石城郡に於ける小麥増殖案に就いては各町村の實行委員並に指導、地擔當者、技術員等八十餘名は來る廿八日午前九時より團體事務所にて協議會を開催し増殖實行委員の職務割當指導擔當者の計畫要領等を打合せた事になつた

運動會の

既報來月各係分擔 七日の平第二小學校秋季運動會各係左の如くである (會長)津田達造(總務)金

耳鼻咽喉科専門

増田醫院

平南町(電話四二八番)

内科小兒科・花柳病科

藤沼醫院

入院需應

平町紺屋町 電話五〇七番

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します 往診 呼吸器病ばかりではありません 平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之 女醫 川井安子

澤邦男(運動係)佐藤信義 野原忠見 大須賀百世 熊谷保高 吉田治藏 木村ヒヂ 山森タマ(準備係)渡邊啓二 鈴木寛 草野光司 鈴木定光(會場係)小松政一 松本清見 玉水英明 米本實 (庶務係)荒忍 阿部シヅノ(會計係)志賀ナカ(接待係)玉手利藏 海老原 英 高橋チイ 鈴木トク

蕪市況(20日)

△四倉市場 (白蕪)百八十二貫(最高)四十六圓三十錢(最低)三十六圓(朔)四十一圓七十錢

吉田眼科病院

平南町 電話六八番

三名重傷の

爆發事件を極秘に

平署へも届出をしない

無責任極まる福島炭礦

石城郡赤井村福島炭礦坑夫同村高萩山ノ入八五號三浦平八(三)渡邊三郎(三)半澤明一郎(三)の三名は去る十九日午前一時半頃同礦第七坑で爆破

作業中 三個の爆薬を押し入れたうち一個不發で残つて居るに氣付ず三浦が雷管を強打した爲め轟然爆發三名諸共跳ね飛ばされ三浦は右眼を失明他の二名も夫々

重傷を負ふた

事件あり 同炭礦では面倒な責任問題を起す事を懼れて是れを極秘に附し平署に對しても何等届出を爲さず暗裡に事件を葬らんとした處前記三浦が眼の治療を受け平町明雲堂眼科醫院に來た事より發覺平署より本日福田部長が取調べに出張した

平職業紹介所の

成績や、良好に

平職業紹介所に於ける本月十一日より昨日迄の取扱成績を見ると求人では男六十二名、女三名、計六十五名、求職は男七十五名、女十名、計八十五名で其内紹介済みの者は男七十三名、女六名、計七十九名と云ふ成績で事業界の稍々回復せるのと季節的求人者の増加で成績幾分良好を見たが十月頃からは一層求人者が増加すると見られて居る

無免許桂庵

前借金横領

石城郡湯本町字三函高野益

川崎本社長

放送

川崎本社長は名古屋放送局に招かれ来月五日午後六時

より童話放送の爲め同地に赴く事となつた因に本社長の放送回数は五十數回に及び名古屋放送局は今度で三

最後の召喚状に

罰金が漸く整理

既報平検査局にては罰金未納者に對し各々最後の召喚状を發したので毎日四五名宛出頭し内入する者やら延期を願ふ者やらで大混雑を呈して居るが本日迄の納入額は千四圓にて全額の約四分の一整理がついたと

箕輪青訓

指導者を排斥

石城郡箕輪村青年訓練所指導員高萩勝男氏は此程家事の都合で辭任したので村長高萩正一氏は後任として同村吉田賢四郎氏を縣に上申した處訓練所生徒等は吉田氏の排斥を起し種々騒ぎを演じて居ると

佐藤君負傷

吉林の戦斗で

若松二十九聯隊滿洲駐屯平町研町出身佐藤亥之吉君は

明日のラジオ

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
童話「チビのなまけ」栗津勲

後七、三〇 講演
後八、〇〇 獨唱とヴァイオリン獨奏 獨唱 船橋榮吉 ピアノ伴奏 高折宮次

後八、五〇 連續講談「天保六花仙の内くらやみの丑松」三席 神田伯龍
後九、三〇 時報 全國ユ豫エース 氣象通報 番

今日も明日も北東の風晴曇相半

を行つた結果飼養者以外には絶對養豚小屋附近に立寄る事を嚴禁する旨を申し合した

理由なく

點呼不參

平署で取調

石城郡下小川村字下平居住農高比良勝彌(三)は本年八月十九日赤井第二小學校に行はれた陸軍簡點呼を受くべく指令され乍ら理由なく出席しなかつた事發覺平署にて取調を受けた

養豚場に

立入嚴禁

勿來の申合

石城郡勿來町養豚業組合では去る十九日窪田小學校に於て豚コレラ豫防の協議會

偉い人物の卵

父親の自轉車失敬

一本の遺書を殘して家出

石城郡好間村大字下好間字大館猪狩時夫三男英雄(九)は廿日朝東京で偉い人物になると一本の遺書を殘して父親の自轉車を失敬し無断家出したので本日平署に父親から捜査方を願出た

組告

明日の部

前六、三〇 佛敎講座「原人論」梅檀中學々長櫻井肇山

前七、〇〇 彼岸會法要

前九、一〇 料理献立「馬鈴薯入のオムレツ」中村光三

前一〇、三〇 家庭講座「秋の彼岸に蒔く草花の數々西島樂峰」

後〇〇、五〇 管絃樂コロナオーケストラ指揮佐藤清吉

圖書展の出品

各小學校にては本年十一月十一、十二、十三の三日間本縣初等教育研究會主催の下に師範附屬小學校に於て開催される第一回縣下各小學校児童作品圖書展覽會に出品すべく目下各係訓導指導の下に練習中であると

平農業倉庫を

倉入指定に

本縣では今回各製絲業者に對し倉庫證券を發行する關係から昨日を以つて石城郡の指定倉庫を石城販賣利用組合平農業倉庫を當てる旨通牒があつた

泉村縣外視察

石城

郡泉村農會では來る廿五日午前九時より役員會を開會し梨の縣外視察員に就いて協議を行ふと

平第一、北滿義捐金、平第一小學校少年赤十字團では北滿水災義捐金として金五圓を日本赤十字社福島支部へ送附した

火藥庫の検査

縣保安課森技手は本日來平し平署管内全炭礦會社に於ける火藥庫の検査をなした

平職業紹介所の報告

回求人部の部

△ミシ、見習、十七才 尋卒 仕着小遣(東京市某)

△雜役、二十五才 尋卒 給料面談(四倉町某)

△納豆製造見習、十八才 尋卒 月三四圓(平町某)

△豆腐賣子、三十以下 尋卒 賣上の二割(相馬郡某)

回求職の部

△女中、四十五才 無學 給料面談(平町某)

△土工、四十三才 高一 給料面談(三重縣某)

△コック、二十六才 高卒 給料面談(相馬郡某)

△大工職、三十七才 尋四 給料面談(新瀉縣某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

第一百五十七席

女流劍客里見靜枝

櫻井何氣なく應對

長谷部傳藏は虎五郎の許に熊谷から歸つて見ると、其處に櫻井五助が居る。ギクリとしたがづう／＼しい奴ですから何気なき態にて傳「これは櫻井先生、久々にて拜顔いたしました、毎時も御繁昌にて恐悦至極」と云つたが悪事が露顯したならば直に逃げるつもりで敷居越に頭を下げて腰を浮してゐる、櫻井は此奴里見主計を暗殺した憎い奴と思つたが、これも何気なき態に見せ

どうやら斯道の極意も會得いたしたやうにございませう。これと申すもあなたに打負された爲め一時はお怒り申したが今日に至ると誠に有難いことにございませう。五「敷下殿秋田殿はどうなされた」



傳「江戸で別れましたが當時何處に居りますやうに音信もございませぬ」

五「貴公は傷を受けて居らるゝが決闘の相手は何者か」

傳「それは信州上田の旅人でございまして些細な事か

五「イヤ其事も親分から承つた、拙者之にて貴公に逢ふとは盡きせぬ縁、先年は失禮いたしました」

傳「イヤもうあなたの爲に辛き目に遇ひそれが薬になりまして一心に武藝を

ら口論いたし善光寺門前に於て太刀を合せ手前も傷を負ひましたが其奴は刺し止めてござる、イヤどうも激しき太刀風にて大に驚きましたやうやう討果しましたござる」

が五助は何も知らぬやうだこれならばといよ／＼安心して虎五郎の許に居る、五助は長谷部が此處に居ることを書面にて里見の許に知らせたが何の返事も無い、これは無いわけです、主計の娘静枝は門人の山路金作と共に一度江戸を去つて父の故郷房州北條に参り、累代の菩提所に遺骨を納めて親族の許に一時身を落着けたが亡父の怨みを晴らさねばならぬ、其には腕を磨かねばなりません、山路といろ／＼此事に就て相談した、とお話茲に一變して神田お玉ヶ池に道場を開き居る千葉周作、その近所に東條一堂といふ學者が居ります、これは下總の出身、其當時博學と云はれた學者の中の學者、今も五辨と申す著書が出て居るが古學の大家この一堂先生と千葉周作先生は睦じき仲、といふは一刀流の上へ北辰といふ二字を冥せられた一堂先生のいたした事ださうです

周「先生、美人が居られますな」
一「ウンあれはわしの遠縁の者である、どうだ千葉さん、お前の手許に置いて召使つてはくれまいか」
周「當人が望むことならば召使ひに致します」
一「さうか、コレ静や、これが千葉周作先生だ、劍術では日本一、お前を召使ふと申すが先生の許へ行くか」
静「御奉公いたします」
一「さうか、それでは千葉さんお願申す」
と申した。

●は切貸●

電話三四三番の香
!!!〜シクタ和昭

一冊の代金で御希望通りな
五冊の雑誌が自由に讀める
川崎巡回文庫
電話六三〇番
申込次第規則書進呈

外科 X 光線科

性病科
外科科
科科科
平町 田町
安齊外科醫院
電話四七五番
意隨院入

夏期中臨時大特賣トシテ御願申シマシタ石炭モ御蔭様デ全部ヲ賣リ盡シマシタ就キマシテハ從來ノ石炭ヲ御願ヒスル事ニナリマシタカラ不相變御引立ノ程偏ニ御願申シマス

●正味十貫目 金三十拾錢
御注文ハ
電話三七番
平驛前
阿部石炭商店
△配達ハ一俵ヨリ致シマス

新製品

コーヒー通の待望せる
挽立コーヒーの快味
四半卦罐入 〇、三五
半卦 〇、六五

コーヒー發賣

グアテマラ 二割
ジャマカ 三割五分
モリヤバカ 四割五分
速席挽立てを差上げます

大勝園コーヒー部

電話三九六番